

岡崎の教育に思う

愛知県立岡崎工科高等学校
校長 清水 寿浩 氏



教育随想

「おはよう」「おはようございます」
……岡崎工科高校正門前の横断歩道。そこには見守りの保護者と本校ボランティアの生徒、元気いっぱい
の小学生、通勤通学の人たち。とても
気持ちの良い朝の挨拶。
また、小中学校への出前授業や地
域の方とのものづくり教室は、いつ
もたくさん笑顔と主体的な学び合
いに溢れている。
これらの機会は、生徒だけでなく
我々教員にとっても大きな価値があ
り、日々感謝の念に絶えない。
子供たちと地域の方、企業の方、
すべての方がつながった岡崎の教育
は、まさに哲学者イマニエル・カン
ト氏の言葉「人は人によって人にな
る」が強く響く。教え合い、学び合
い、ともに成長していく。この強固
な地域基盤と循環型で持続的・発展
的な教育に深く感謝する。
本校は、二万六千人を超える技術



令和4年5月1日
5月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…………… 1
愛知県立岡崎工科高等学校
校長 清水 寿浩 氏
この人に聞く…………… 2
国際交流 NGO「ViVarsity」
代表 長尾 晴香 氏
羅針盤…………… 2
理科指導員 大洲 壮一郎
ふれあい…………… 3
額田中学校
教諭 松浦 圭祐
特集…………… 4
つながりを生かした「まち」づくり
～松應寺横丁 活性化の取り組み～
お知らせ…………… 6
フォト・ヒストリー… 8
茶づくり(昭和53年)
この本を…………… 8



者・技能者を県内外や世界各地に輩
出してきた。歴史と伝統を誇る工業
高校である。製造品出荷額四十三年
連続日本一である「ものづくり王国
あいち」を支えている。
玄関に入ると、そこには巨大な
光電子増倍管が展示されている。
これは、素粒子についての研究で
二〇〇二年にノーベル物理学賞を受
賞された小柴昌俊氏をものづくりで
支えた本校OB鈴木賢次氏が製作し
たものである。カミオカンデ、地下
深くに設置された一〇〇〇本の光
電子増倍管により、宇宙の起源に深
く関わる超新星爆発にもなる素粒
子「ニュートリノ」の検出に世界で
初めて成功したことは有名である。
本校では、岡崎商工会議所を中心
とし、地域の産業界と連携した「も
のづくり基盤人材育成事業」を進め
ている。「鉄は熱いうちに打て」に
あるよう、若く柔軟な高校時代に、
多くの地域企業の人たちに触れ、も
のづくりの学びに触れ、実際に本物
に触れる。どの生徒も新しい道を知
り、達成感を積み重ね大きく成長し
ていく。この感謝の気持ちを、岡崎
を中心とした地域産業を支える人づ
くりで応えていきたい。
(しみず としひろ)



誰もが自分らしくいられる社会に

国際交流NGO「Vivarsity」

代表 長尾 晴香氏

「Vivarsity」は、日本人と外国人がお互いを理解し、助け合っ

理由を教えてくださいー

大学で英語を専攻しており、留学を

て実感しました。その団体で私と同じ

外国人の方を支援する上で難しいこ

いちばん大きいのは心の壁をなくす

私たちが目指す多文化共生は、「日

本の社会を日本人と外国人でもにつ

えてきましたかー

外国人の方が知りたいと思うことを

まず、お互いを知るといことから

始めました。そのために外国人の方が

を行いました。このような活動を通し

「貴組織が目指す社会について教えて

またこれからの未来を担う外国の子

誰しも一人一人に可能性があり、応援



氏名 ながお はるか

子供が理科の見方・考え方を働かせるための教師の役割





思いを伝えることだ

額田中学校

教諭 松浦 圭祐

明るく素直な四年生のAさんには、何事にも一生懸命がんばるよさがある。ところが、授業では、自分から進んで発言することができずにいた。Aさんが一生懸命に考えたことを、自信をもって伝えられるようになってほしいと考えた。

社会科「自然さい害からくらしを守る」の授業で、自分の命を守る対策が十分かどうか話し合いを進めた。Aさんが、ふと、つぶやいた。

「地震は危険だと思っけれど、実際に起きたらどうすればいいだろう。」
Aさんが、身近な題材を自分と結び付けて考え始めた絶好の機会だと感じた私は、彼女に問い返す。

「Aさんの家では、地震の対策をしていますか。」

「私の家では、非常食は用意しているけれど、それ以外にも何か準備しているのかな。」

授業中、Aさんがじっと考え込む

姿があった。その考えをもっと深められるように、一人調べや様々な人から話を聞く場面を設定することにした。市役所の方や学区の総代さんから聞いた対策など、新たな事実との出会いにAさんは、どんどん追究活動にのめり込んでいった。

「よく調べたね。ぜひ発表してみようよ」そう声をかけてみても、やはりAさんが皆の前で発表することはなかった。

そこで、Aさんが調べたことを友達に進んで伝えられるよう少人数のチームでの話し合いを活発に取り入れた。同じ仲間との話し合いを繰り返すうちに、調べたことや考えを友達に一生懸命に伝えようとするAさんの姿が見られるようになってきた。

ある日、Aさんがチームでの話し合いの中で真っ先に意見を述べた。「私たちは、学区の備えに、頼りすぎてはいけないのかもしれない。」

真剣なAさんの表情に、チームの話し合いの流れが変わった。やがて、自分たちの町の防災マップ作りをしようというAさんの提案で新たな探究活動が始まった。自分の提案が友達を動かしたことに戸惑いつつも嬉しそうに活動するAさんがいた。

九月、体育の学習発表会の練習が始まった。三年生との合同演技である。「上学年として、どのような姿を見せたらよいか」というテーマで学級会を行った。演技に関する意見

が続く中、Aさんは、「三年生より早く動いて、メリハリをつけられるようにする。」

と、新たな視点で発言した。この発言が、学級を動かした。学級全体の場で、堂々と考えを伝えるAさんの姿があった。少人数の中で自分の考えを伝え、認められる経験により、Aさんは、自信をもったのだろう。

Aさんにこの一年でいけば成長できたことを尋ねてみた。

「自分の意見が言えるようになったことです。これまでより、何倍も学校が楽しくなりました。」

この言葉が心に残り、今も私の教員としての原動力になっている。



た)みたいになら温まって……」と次々に予想を発表した。「金属みたいに」「前みたいに」は、理科の考え方の一つである関係付けである。例えばここで「金属の温まり方と関係付けて予想できているね」などの声かけがあると、子供の考え方が価値付けられ、理科の見方・考え方が意識化される。

次に、子供たちは、予想をもとに二股試験管の水を加熱した。子供たちは、示温インクの色の変化から温まり方を捉え、温まる順を明確にまとめるため、①②と番号をふった。これは、理科の見方の一つである質的・実体的な視点を働かせて、目で見えない水の温まり方を番号で表し、可視化したことになる。A教諭が視覚的に捉えやすい示温インクや番号を用いたことにより、理科の見方を働かせる子供たちの姿を引き出した場面であった。その後、複数の実験結果から、子供は二股試験管の水が温まるためには、対流が必要であることに気付いた。

子供の実態を捉えた授業づくりと価値付けの繰り返しにより、子供は意識的に理科の見方・考え方を働かせることができるようになる。それにより、子供は自然の事物や現象への認識を深めるとともに、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養うことにつながる。



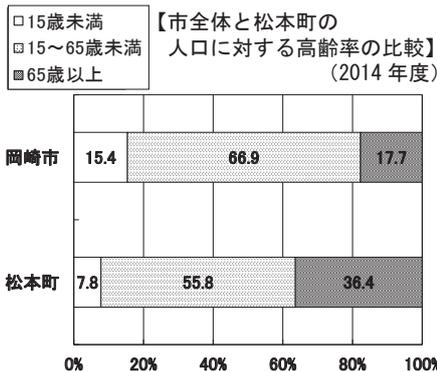
つながりを生かした「まち」づくり

～松應寺横丁 活性化の取り組み～

アーケード街の角を曲がると、若い女性のグループがスマホを構え、楽しそうに写真撮影をしている。かと思えば、住民らしき高齢の方が荷物を置いて立ち話をしている。観光客と住民がごく自然に行き交い、人の流れが絶えない。

岡崎市松本町の、通称「松應寺横丁」は、松應寺の境内の中にある、全国的にも珍しい形態の商店街である。しかし、かつて大いにぎわっていた商店街も、時代の変化で人が離れ、空き家が増えた。住民の高齢化も顕著になった。

その状況を変えようと、松本町内会、松應寺、NPO法人岡崎まち育てセンター「りた」が手を組んで、「まちづくり協議会」を立ち上げ、町の活性化に着手した。変化することなく残った昔ながらの町並みを強みととらえ、「懐かしくて新しい街、松應寺横丁」として新たな一步を踏み出した。住民アンケートの結果をもとに、高齢化対策として、買い物などの生活を支える支援や交流の場づくりを進めた。また、町の活性化のために、イベントの開催、空き家への新店舗の誘致、情報発信などを行った。困難もあったが、次第にその成果が形となった。空き家を改築したサロンには、趣味の合う仲間が集い、横丁の人々のためならばと、移動販売を始める人が現れた。一方、レトロな町並みは若者に人気となり、春と秋のイベントには千人を超える人が訪れるようになった。現在、協議会は、店舗主も加わった「まちづくり発展会」に形を変え、さらに精力的に活動を続けている。新しい店舗の出店も続き、県外からの観光客も増えている。全国的な課題である地方の町の活性化の実践例として、人と人とのつながりを大切にしながら、松應寺横丁は止まることなく歩み続ける。



▲修繕を終えたご廟所 (令和4年3月)

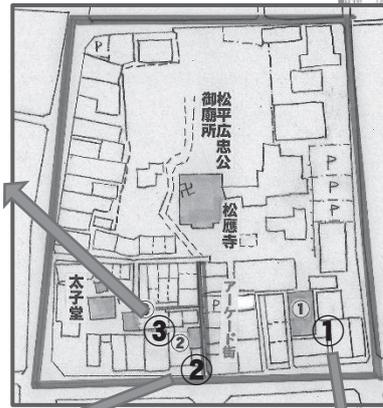
松應寺と横丁のつながり

松應寺は、永祿三年、徳川家康が、父・松平広忠を供養するために創建した由緒ある寺院である。昭和二十年の岡崎空襲で、広忠公御廟所と太子堂以外は全て焼失する。焼け野原での混乱の中、寺の境内で闇市が開かれ、それが横丁の始まりである。そして「お寺の中のまち」という特殊な商店街ができあがった。



▲③誘致で開店した第1号の店舗

【松應寺横丁の周辺案内】



▲②SNSでの発信でも話題のコーヒー店



▲①高齢者の交流サロン 左：書道教室 右：ごまんぞく体操の会



▲春と秋に開催される「にぎわい市」(第1回2011年)



▲人と人がふれあひながら、買い物をする様子「にぎわい市」(第1回2011年)

まちづくり発展会 会長 高木さんの話

松本町は、もともと能見 神明大祭などにも熱心に取り組む、地域のつながりが自慢の町です。町おこしの活動を始めると、地域のためにひと肌脱ごうと動いてくださる住民も多くなり地元の絆を感じます。活動する以前よりも、今の方が、皆が課題に気づいている気がします。しかし、発展会主導ではなく、住民が「もつとやるうよ」と自ら動き出すぐらいのペースで、町全体が進んで行けたらと思っています。

NPO法人岡崎まち育てセンター「りた」 天野さんの話

松應寺横丁の改革前に住民アンケートを取り、課題に対しては、地域の方や寺の住職と話し合い、解決策を練りました。努力を重ねた結果、高齢者支援として、会員制で時間限定の弁当屋を開いてもらったり、移動販売車に来てもらったりすることもできるようになりました。住民の方にも好評です。しかし、防災上の問題など、まだまだ課題はあります。長い目で見て、住民が安全安心に暮らせる町を作っていくことがこれからの目標です。



●表彰関係

◆愛知県中学生バスケットボール新人大会

○中学生の部 男子 2位

◆第34回中部日本個人・重奏コンテスト

【東海大会】〈中学校部門〉

○重奏の部 管弦打七重奏

銀賞 矢作中

○重奏の部 金管八重奏

銀賞 矢作中

○重奏の部 打楽器三重奏

銅賞 矢作中

○重奏の部 打楽器五重奏

金賞 竜海中

○個人の部 コントラバス独奏

銀賞 南中 杉田ゆかり

○個人の部 ホルン独奏

銅賞 南中 内田 理湖

○個人の部 ホルン独奏

金賞 竜海中 山本 結月

○個人の部 クラリネット独奏

銀賞 翔南中 畑中 咲弥

◆第34回中部日本個人・重奏コンテスト

【愛知県大会】〈中学校部門〉

○個人の部 コントラバス独奏

金賞 南中 杉田ゆかり

○個人の部 ホルン独奏
金賞 南中 内田 理湖
◆成田山全国競書大会
○中学生の部
優秀賞 竜海中 宮原 伶歌

●令和四年度校長会役員

〈小中学校長会〉

会長 中野渡善樹(城北中)

副会長 倉地 耕治(豊富小)

吉田 章二(竜美丘小)

石川 敏幸(常磐中)

大西 裕子(美合小)

柴田 和美(北中)

石原 真吾(大門小)

加藤 有悟(南中)

清水 良隆(矢西小)

小田 哲也(新香山中)

牧野 守(井田小)

児玉 洋行(竜海中)

荒河 昌吾(矢北中)

高橋 誠(六北小)

丹羽 郁人(北野小)

細井 太郎(夏山中)

内山彩由実(恵田小)

犬塚 健一(小豆坂小)

清水佐知子(形埜小)

保田 眞美(山中小)

鈴木 勝久(岡崎小)

磯村 彰久(福岡小)

柴田 知子(三島小)

今枝 武司(東海中)

近藤 浩之(河合中)

伊澤 勉(六美中)

平 任代(竜南中)

天野 孝志(六北中)

山内 貴弘(矢作中)

〈小学校長会〉
会長 倉地 耕治(豊富小)

副会長 吉田 章二(竜美丘小)

大西 裕子(美合小)

誠(六北小)

高橋 眞吾(大門小)

石原 守(井田小)

牧野 治子(広幡小)

清松 治子(広幡小)

石川 敏幸(常磐中)

柴田 和美(北中)

今枝 武司(東海中)

近藤 浩之(河合中)

小田 哲也(新香山中)

山内 貴弘(矢作中)

荒河 昌吾(矢北中)

長谷川勝一(額田中)

伊澤 勉(六美中)

柴田 昌一(葵中)

磯村 彰久(福岡小)

特別支援 伊澤 勉(六美中)

生徒指導 伊澤 勉(六美中)

給食 長谷川勝一(額田中)

福安 保田 眞美(山中小)

進路 今枝 武司(東海中)

学校経営 山内 貴弘(矢作中)

教育条件 岩瀬 竜弥(六南小)

法制 天野 孝志(六北中)

教育委員会 平 任代(竜南中)

〈専門委員会・委員長〉

〔SDGs推進委員会〕

長 山元 嘉子(根石小)

〔特色ある学校づくり推進委員会〕

長 夏目 弘之(六中小)

〔特色ある学校づくり推進委員会〕

〔岡崎版コミュニケーションスクール〕

長 宇都木靖弘(細川小)

副 荒河 昌吾(矢北中)

〔新しい学校デザイン推進委員会〕

〔部活動検討〕

長 佐橋 康仁(宮崎小)

〔新しい学校デザイン推進委員会〕

〔部活動検討〕

長 丹羽 郁人(北野小)

副 長谷川勝一(額田中)

〔教職員の研修検討委員会〕

〔教職員の研修検討委員会〕

〔新任教師の集い企画・運営〕

長 塚谷 保(藤川小)

〔教職員の研修検討委員会〕

〔新たな教師の学び〕

長 佐橋 康仁(宮崎小)

〔新しい学校デザイン推進委員会〕

〔部活動検討〕

長 宇都木靖弘(細川小)

副 荒河 昌吾(矢北中)

〔新しい学校デザイン推進委員会〕

〔教職員の意識調査〕

長 安藤 眞樹(美川中)

副 寺島 真澄(六西小)

〔特色ある学校づくり推進委員会〕

〔岡崎版コミュニケーションスクール〕

長 夏目 弘之(六中小)

〔特色ある学校づくり推進委員会〕

〔未来型の教育〕

長 山元 嘉子(根石小)

〔SDGs推進委員会〕

長 坂元 干城(大樹寺小)

副 寺坂 信久(翔南中)

〔ICT教育推進委員会〕

長 森 竜師(福岡中)

副 岡 秀之(羽根小)

〔郷土読本編集委員会〕

長 中西 勉(男川小)

副 尾崎 知佳(生平小)

〔授業改善委員会〕

〔教育課程実施状況調査〕

長 磯村 彰久(福岡小)

〔補助教材検討委員会〕

長 竹平 眞仁(矢北小)

〔英語が話せるおかざきっ子研究委員会〕

長 太田 幹也(六名小)

教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 ・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

令和3年度 岡崎市教育研究論文 入賞者

■小学校個人の部

最優秀賞

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Entry for 体育 竜美丘小 加藤 雅也.

優秀賞

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects and schools.

佳作

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects and schools.

■中学校個人の部

最優秀賞

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Entry for 保健体育 翔南中 井土民記臣.

優秀賞

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects and schools.

佳作

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects and schools.

■共同の部

最優秀賞

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Entry for 教育全般 広幡小 加藤 良彦.

優秀賞

Table with 4 columns: 教科名, 学校名, 氏名, 主 題. Multiple entries for various subjects and schools.

(論文入賞者数)

Table with 5 columns: 賞, 最優秀, 優秀, 佳作, 合計/応募数. Summary of award counts.

佳作

Table with 2 columns: 教育全般, 代表 武井 翔.



・カ
ツ
ト

六ツ美中 加藤朱実

茶づくり (昭和53年)

写真提供：大門小学校

全校児童が一列に並んで、真剣に茶畑の草取りをしている。茶の木は開校一周年記念として植えられたものである。

学校を囲むフェンス沿いに、児童一人あたり二本、約八百本もの茶の木が植樹された。当時の校長が、児童一人一人の茶の木に名札をつけ、皆で大切に育てた。現在も、三年生が五月初めに茶摘みを行っている。その葉を茶葉にして、学校行事に参加する学区の方々に振る舞うことが伝統になっている。

長年引き継がれてきた行事が、各学校で今も行われている。伝統行事を大切にすることが、学校の文化、そして地域の文化にもなっていく。



隣の人同士が手を取り合い、助け合うことが、私たちはできているだろうか。

現在、日本にはさまざまな国籍の方が暮らしている。言葉や文化、習慣の違いはあるが、それを互いに理解して尊重する心があれば、つながりが生まれる。ともに暮らす一員として、誰もが住みやすい地域社会を目指したい。

とホ

卓月 ツ



▲虫はどこかな(緑丘小)

つながりを大切にしたい町づくりが進んでいる。寺、昔からの住宅、アーケード街、新しい店舗。町の活性化を願う人々のつながりが、松應寺横丁を再生させた。これからも、町を思う人々の心がさらに町をつくっていく。そんな地域を愛する心が住民に引き継がれていくことを願う。



*祖国とは国語
新潮社

藤原 正彦
¥572

心に残った一文
国家の浮沈は小学校の国語にかかっている。

著名な数学者である筆者は、日本の今の危機的状態を救うのは、「国語」であると言い切る。そしてこう主張するのだ。「国語は、すべての知的活動の基礎であり、論理的思考を育て、情緒を培うものだ」と。

確かに我々は母国語を使って考える。獲得している語彙を大きく超えて考えたり感じたりすることはない。ならば母国語の語彙は思考であり情緒であると言えよう。豊かな母国語で子供たちと接し、豊かな母国語を子供たちに獲得させてあげるのは、我々教育者の、いや大人の、最大の使命ではあるまいか。

*逆ソクラテス
集英社

伊坂幸太郎
¥1,400

*いま会いにゆきます
小学館

市川 拓司
¥1,000

*とんび
角川書店

重松 清
¥1,650

北野小学校 丹羽 郁人